

わが家の防災スタートブック(4) その時編

1 地震発生！どうする！？

絶対の正解はなく、その場で正しい判断ができるように訓練することが重要

- ・室内では 机の下、安全な場所、身をかがめるなど一日ごろから家の中で安全な場所を確保し、確認する。
- ・エレベータでは すべての階の停止ボタンを押す←普段から笛やLEDライト、ポリ袋をもっておく。
- ・スーパー、コンビニなど 落下物から身を守るためカバンなどで頭を保護する。商品棚から離れ壁際に身をよせる。
- ・道路上 落下物から身を守るためカバンなどで頭を保護する。空き地など安全そうな場所に移動する。
- ・電車内 つり皮や手すりに両手でしっかりつかまる。乗務員の指示にしたがって冷静に行動する。
- ・海岸 直ちに高台に避難する。警報・注意報が解除されるまで海岸に近付かない。
- ・運転中 ハンドルをしっかり握り徐々にスピードを落とす。道路の左側に車を止めエンジンを切る。鍵はかけたままでドアロックをせず徒歩で避難する。

注意：以上は一般的なルールであるが、緊急時にはこれにとらわれず最適な判断を自ら行う。

2 揺れがおさまったら、出火防止、出口確保、二次災害防止

必ず大きな余震があるので、できるだけ安全な場所に移動する。

火が出たら落ち着いて消火する。小さい火は毛布をかけるなどで消す。ある程度大きくなったら消火器を使う。

もっと火災が強くなったら、怖いのは火よりも煙。煙を吸わないように駆け抜けるか、低い体制で避難する。

外出するときは、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を止める。

ドアや窓をあけて脱出口を確保する。

3 家族の安全を確認し、隣近所の初期消火、救助活動

災害用伝言ダイヤル、災害用伝言版、遠くの親族などを活用して家族の安否確認をする。

隣近所で協力して消火活動、救助活動を行う。

4 テレビ、ラジオ、ケータイ、公的機関などから信頼できる情報を収集する

デマが必ず発生する。真偽を確認して行動する。

5 支援をする、必要な支援を求める

自分より厳しい状況にある被災者を支援する(支援力)。

困っている状況、必要な物を信頼できる人、公的機関に伝える(受援力)。